（内務省認可）

時事新報

第千百七十一號

（日曜日休刊）　（定價三錢）

時事新報定價

一枚金三錢〇一箇月前金六十五錢〇三箇月前金一圓八十錢〇六箇月前金三圓四十錢〇一箇年前金六圓五十錢〇郵便代一箇月金廿六錢一箇年金三圓十二錢〇左ニ掲ル各地ニ於テハ該地賣捌所ヨリ遞送無料ニテ配達致候（但本社ヨリ直接郵送スルモノハ此限ニアラズ）

東京　横濱　横須賀　横浜　神戸　尾ノ道　鞆　山　笠岡　岡山　廣島　大坂　大津　和歌山　總島　島　嶋　知　下ノ關　名古屋　敦賀　福井　岡崎　豊橋　四日市　津　松坂　山田　仙臺　福島　二本松　石ノ巻　函館　青森　弘前　宇都宮　高崎　八王子　千住　草加　越ケ谷　熊谷　秩父　幸手　久喜　鴻巣　千葉　登戸　寒川　佐倉　東金　市川　八幡　船橋　其他同地近傍配達願官ノ個所ハ同シク遞送料不申受候

時事新報廣告料（前金）一行ニ付

一行廿四字詰	一日限	二日以上	七日以上十五日迄	十六日以上廿一日以上
自一行至五十行	八錢	七錢	六錢五厘	六錢
自十一行至五十行	七錢	六錢五厘	六錢	五錢五厘
五十一行以上	六錢五厘	六錢	五錢五厘	五錢
七八九	七錢二厘	六錢八厘	五錢	四錢五厘
六錢	五錢八厘	五錢九厘	四錢五厘	四錢
五錢四厘	五錢	五錢五厘	四錢	三錢五厘
四錢	三錢五厘	三錢	二錢五厘	二錢

明治十九年一月十三日　水曜日
舊乙酉十二月九日　（癸、酉）

日出入　日出午前七時十一分　日入午後五時零七分
月出入　月出午前十一時二十八分　月入午後一時二十四分
朔望　朔午後十時四十四分
（西暦一千八百八十六年）

時事報報

商況回復の機あり

數年來打續きたる日本全國の不景氣ハ去年の春季に際して其極度に達したるが如く當時都鄙の別なく民間の慘狀は實に人をして聞見に堪ゆるざらしむるものありたり然るに夏季を過ぎて漸く秋季に近づくに及びて季候の不順も順に復し各地ともに米穀の豊作全國を平均して平年に幾割を加ふる出來高なりと聞かる豊年にも拘はらず米價は意外の上直にて各地ともに一石五圓内外の位を落さず隨て民間の金融何處となく滑かにありて前日に比して遲迫あらず全國米穀の出來高は平年三千萬石内外なるゆゑ今仮りに去年の出來高を二割の増加とせれば六百萬石の餘剰あり五圓相場を以てこれを金に換して三千萬圓と爲る日本は人口夥多なりといへども一ト秋にして三千萬圓の臨時潤澤を得たらんには必ず何程か從前の苦痛を減ずべきは當然の數あり斯の如く既に米穀の豊作の爲め各地多少の潤澤を得たる折柄幸ひも十一月に入りて歐洲市場に需用供給の不釣合より生糸の價大に騰貴し忽ち日本の市場に反響し來り從來睡眠の中に在りし生糸の賣買は俄然無上の生氣を現はし糸價日に益騰貴し市況日に益活潑と爲り睡眠れ中に價格を取てみれを活潑無上に日に價を比較するに生糸百斤に付大抵百圓内外に相違を見るに至りたり假りに日本全國の生糸の產額を千萬斤とし一斤に付一圓に直上げあるとしたるとすれば全國にて千萬圓の臨時に儲けを爲えたるものあり但し今回生糸相場の騰貴は去年新糸の初相場より始まりしにあらざるがゆゑに當初に賣掛ひたる生糸は不幸にして此恩澤に漏れたるまとならんといへども其代りには又從來生糸市場の不活潑なりしを爲めに前年より持越し來りたる生糸の向は蔵積みのまゝなりしものも數多ありしなるべければ彼れ是れと勘算し兎に角に今回生糸騰貴の爲め日本國民の祟りたる臨時の潤澤は千萬圓内外なりとして大なる違算はなるまじと以上略説もるが如く米と云ひ生糸と云ひ此數額の際に日本國民に向ひて思ひ掛けなき利益を降したる其功能は仮令へ數年來の不景氣と挽回するまでに有力のものには為らずとするも兎に角に臨時に三四千萬の金と全國に散布したるものは相違なきがゆゑに多少に拘はらず其金額相應の利益あるべきは疑ひなきなり

これは多年不景氣の氷雪に窘められたる日本の商工社會も昨年末に至りて初めて一陽來復の第一機を發見したるものと云て可ならん

然るに近頃東京市中の商況を傳聞するに去年歳暮の商況より今年初荷の商況に掛けて各店取引れ不活潑不螢昌なるは近年に珍らしき有樣にてこれを昨年の今時に比べれば先づ半分の景氣なりと云へり我輩これを聞て不審に堪えず又失望に堪ゆる商況はは其次第を當局の商家に質問したるに其返答の略に曰く東京の商業は元と江戸と稱えたる時節よりして專ら武家の需用に供給そなるより成立したるものにして中さば全國の諸產物を取集めて之れを其消費者たる武家に賣渡す取次仕事たるゆゑ過ぎざりしなり維新以後東京の商業も稍や面目を改めたりと雖ども大體は矢張り江戸時代に如く諸官省諸官員の需用を供給するために成立そるものにして市中の繁昌も全く此地に中央政府の存在するがゆゑに遂に今日なり然るに去年末政府の改革ありて官吏中免職非職と命せられたる者少からず此等の事情より官吏社會には一般に節儉の風流行し一家の消費品は俄に仕入をを見合せ大部分を減じたり依て各商店は俄に品物を貯へ置らざる事に歳暮も年始も成る丈け手元に品物を貯へ置らざる事に注意し一切の取引を扣え目にしたるがゆゑに遂に今日に如き淋さ況商況を現はしたるあり之れ果して此論に如くあれば今の東京の商賈不螢昌は決して深く憂るゆ命せられたる者少からず此等の事情より官吏社會には足らず唯一時の小變化にしく止べき者あらん何となれば官吏社會の進退動搖は日本の殖產上に何等の關係とも有するものにあらず唯東京市中の如く官員と目的れ商業には一時直接の影響を及ぼすこともあらんと雖ども日本全國の爲めには何さる損益も爲さゞるのみならず或ハ今回の改革にて大ゆ官吏の數を減ずることもあらば世間ゆ遊食の徒を減じて力食の人を殖し富の生產ハ前日に比して必ず幾分を加ふるとあるべければ故に今日東京市中の實況は兎も角も今回官吏淘汰の小波瀾は決して商況回復れ動機の既に萌したるを再び止め得る如き性質のものにあらざるあり

今や我輩は微かに商況回復の機を認むるの時節に接したり若し此の好時機を外さず大に力を添えて不景氣退治の業を贊助せんには其の力を用ゐ少なくして功は必ずこれに倍そるものあらん去年以來米と生糸の力由り幸に一陽來復れ機と見ると得たりといへども目下商工社會の氷雪は尚ほ甚ざ深くして容易に春暖融解の時節到來すべき景況あり此れ時に當り若し他の助勢を怠らば或は恐る折角に開かんとしたる梅の花も遂に春を待ち得ずして蕾のまゝに塞に萎るゝの憂あらんかと當局者一考して可なり

官報

○明治十九年一月十一日
任元老院議官　東京大學總理從四位勳三等　加藤弘之

○辭令
叅謀本部御用掛兼勤被免（一月十一日内閣）　元老院議官　西周
叅謀本部御用掛兼勤被免（同）　非職元太政官大書記官　西德次郎
叅謀本部御用掛兼勤被免（同）　非職元叅事院議官補　秋月新太郎
東京大學總理事務取扱被仰付（一月十一日文部省）　東京大學教授　外山正一
依願職務被免（同）　東京商業學校御用掛　磯野計

○政府紙幣流通高　大蔵省出納局に於て調査せる政府紙幣昨十八年十二月末の流通現在高は左の如し

紙幣の種類　十八年十二月末日流通現在額　十七年十二月末日流通現在額

十錢札　二十錢札　半圓札　一圓札　二圓札　五十圓札　百圓札　小以紙幣（イ）　五十錢札　二十錢札　一圓札　五圓札　十圓札　小以紙幣（ロ）　新紙幣（ロ）　合計（イ）（ロ）

（備考）各種紙幣の内其數位に充たざる員數譬へば五圓札に二圓五十錢、五十錢札に二十五錢の奇數あるが如きは洗も損傷紙幣の半額交換となしたるに因り十錢札ゆ錢位以下の奇數と存そるは僅僅札及太政官民部省の一朱札等の交換と爲したるに因れり

○木星の掩食　來る二十五日午前二時木星太陰を掩食そべし（内務省報告）（以上四件本年一月十二日官報）

雜報

○外國新聞記者の處刑　丁抹國ポリチケン新聞社記者ホーラップ氏（國會議員）と其紙上に國皇クリスチヤン陛下ゆ對して不敬ゆ渉る文字を掲げたる科にて昨年十一月中六箇月の禁獄ゆ處せられ又瑞典ストックホルム府發行のスペリッヂ タイドニング新聞社記者某い同國の皇族並に英國皇太子及び其妃を誹毀したる科にて四箇年の徒刑と十四箇月の禁獄に處せられ其上に三千四百クラウン（一クラウンは凡一圓廿錢）の罰金を附加せられたりと云ふ

○体操器械　去る明治十五六年頃までは体操の術未ゆ世に行われず隨て器械等も甚だ不完全にしてろの賣捌店とては府下にて僅かに指を屈もる程なりし當時ゆは各地方の師範學校中學校さへも器械を備へて体操を學ばしむるは極めて少なく況して小學校ゆ至りては体操なぞい夢にゞも知らざる有樣ありしが一昨十七年の頃よりして次第に流行し地方の師範中學校さへも器械を買ひ入れ其術を教授する事となりたれを府下にて右の器械を商ふ店俄に增加ゆされどもその製作法は未ざ不完全にして且つその價も廉ならざりゆ然るに體操傳習所にて器械を撰定して之に改良を加へ殊に昨十八年文部省第十三號の達にて体操を奬勵せしより府下の小學校は勿論地方の小學校に至るまでも体操教員を屋ひ入れ器械を備へて其術を教授する事となりて器械の賣捌方も大に增加せしより以前と引替へその價も下直にて製造する事となれりといふ

○大阪通信　一月五日大阪通信發郵

○滋賀縣廳　同縣廳は愈來る二月上旬より起工に着手する由にて大阪の藤田傳三郎氏が右工事建築を受負ひたるが建物い二階造りの西洋風にて場所は大津字四ノ宮裏手の畑地ゆ新築なし總建物坪數い三百餘坪なり又同氏の受負金高は兵庫縣下和田岬にたるものなるが殊に石と以て疊

今度之を改築する地の測量となしと行ひ官吏は

と又大阪府廳ゆ價れ下落　昨四

北國筋より續々なり又目下同港

三萬石餘なり

○大間々町通信　大間々町は

に七百戸あれど

る所とある人民

るものもあり

養蠶の期節ゆは

省御省係ゆい當

人類ゆ多く會

青年の人々は

ゆ洋學校の設立

校は當時其生徒

俵五圓十錢、大麥

一二升、小豆は同

○岡通信　一

○關日本縣令

熱海へ赴ゆ未た

官吏の昇等又は

一名非職の者二

靜岡縣士族の組

するゆと

九年度に一萬圓

返辨方は廿三年

て公債證書を賜

と要する時ゆ其

の景況當市街の

曆と用ふる

なりてより幾分

の夜高田早苗、市

郎、阪井牧之助、

ゆ於て學術演說會

中々盛會なりし

○福井通信　一

○新年の景況

るゆも拘らず市

は往來繁ゆ如く

聽通に引替へて

りと人々言ひ合へ

起にて今二日木

業より佛教上の

中々盛會なりし

は非常の暴風な

境内ゆある大

村某の妻が通り

期を遂げたりと